



弘前南 S S H 通信

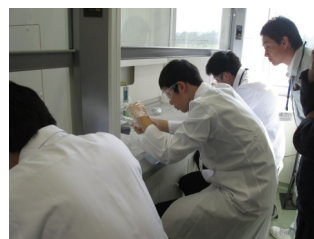


☆ 研究所での実習、研究成果の発表

今回は外部機関での実習と校内の発表会についてです。

①南陵サイエンスセミナーⅡ (10/17 参加者13名 於 青森県産業技術センター工業総合研究所)

2年次生希望者を対象に化学、情報分野の実習を行いました。同センターは「あおもりの未来、技術でサポート」を目標に、中でも工業総合研究所は青森県の環境、社会に沿った電子情報、環境技術、新エネルギー技術の研究機関です。当日は高校生が普段学校で学ぶ内容に合わせ、化学分野では6-6ナイロンを合成し、官能基を吸光度計で分析することで、合成が成功したかどうかを確認しました。情報分野ではLEDの点滅プログラムを作製してIoT (Internet of Things) について学びました。

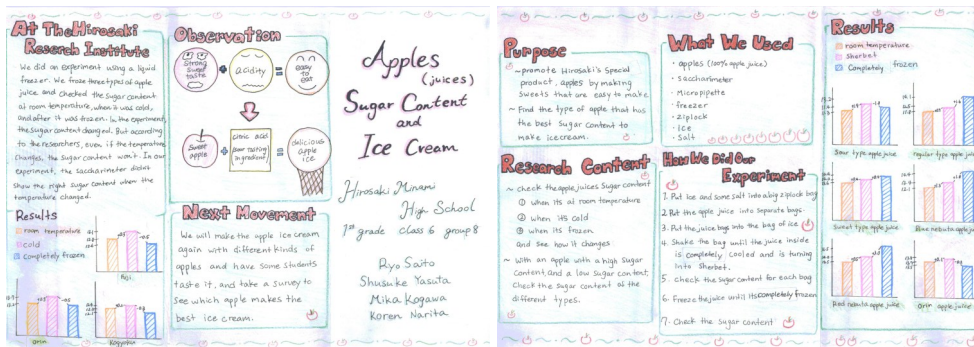


②3ER探究型学習発表会 (10/25 1年次全員 於 本校第二体育館)

科学技術機構主任調査員の関根康介氏をはじめ、青森県産業技術センター工業総合研究所所長の奈良岡哲志氏、白神ビジターセンター館長の相馬光春氏を助言者としてお招きし、5月から1年次240名が60班に分かれて行ってきた「地域の科学資源(3ER)」に関する研究成果発表会を行いました。各HRで予選会を行い、11HR「エマルジョン燃料の作成」、12HR「動植物による地球温暖化への影響」、13HR「羽の形による風力発電効率の違い」、14HR「10代に向けたリンゴ加工食品のPR」、15HR「白神山地の生態学」、16HR「リンゴアイスに最適なリンゴの品種」の6班が代表として発表しました。英語を交えた発表や体を使った言葉の説明などユニークなものもありました。質疑応答も活発に行われ、様々な議論がなされました。助言者の奈良岡氏からは研究に興味をもつことがまず大切であり、失敗を恐れず研究していくことが大切だとアドバイスをいただきました。相馬氏からは白神山地には植物、微生物など様々な可能性があること、動植物や目的に沿った具体的な研究テーマを見つけるようご指摘をいただきました。関根氏からは質疑応答は活発でよいが、クリティカルシンキング(批判的思考)をもつことの大切さを教えていただきました。現在、すべての60班が研究内容を英語にしたリーフレットを作成しており、2月に弘前大学、青森中央学院大学の留学生24名に英語での研究紹介に挑戦します。



[↓現在作成中の英語リーフレット]



参加者募集！ 希望者は研究研修部まで(締切 1月20日昼休み)

サイエンスカフェ in 弘前 [日本表面科学会主催の講演会、研究者との対話]

日時) 1月21日(土) 13:00~14:30

場所) 弘前大学総合教育棟3階 306講義室

演題) カーボンナノチューブとグラフェンの世界によろこそー最も薄い物質への挑戦ー

講師) 東北大学大学院・理学研究科 教授 齋藤 理一郎 先生

参加費) 無料(講演開始前にコーヒー・紅茶などの用意があります)

